

県総体が終わりましたね。3年生は、悔いの残らない大会になったでしょうか。1・2年生の皆さんも、この大会を応援してくれていた友だちや家族に、結果や感謝の気持ちは伝えられましたか？ふだん SNS でやりとりをしている相手であっても、自分の気持ちを自分の言葉で、面と向かって伝えたいですね。



その総体期間中に、全校で「情報モラル・セキュリティ講座」を受けましたね。この便りでは、「人権を守る」という観点で、スマートフォンやSNSを利用する際の注意点について、再度、確認しておきたいと思います。

SNS に人の悪口を書き込んだらどうなるの！？

自分の感情や意見を言う権利は大切ですが、SNS に悪口を書き込んだりして人を傷つけてはいませんか？人を傷つけるケースには大きく次の2つがあり、深刻な問題となります。

①人の名誉を傷つける【名誉毀損】

人の「名誉」とは、その人に対する「周囲の人々からの見方や評価」のことです。その人が「いついつどんなことをした」、「その人はこんな人だ」などと SNS に書き込むことで、例えば「●●さんってそんな人だったんだ～。見損なった…。」というように、周囲のその人に対する評価が低くなった場合、その人の名誉を傷つけたこととなります。（このような場合には、相手に対して慰謝料や実際に生じた経済的な損失の賠償金などを支払わなければなりませんし、名誉毀損罪などの刑事責任を負うこともあります！）

また、書き込んだ意見や批判が事実にもとづいておらず、相手の人格を攻撃するようなものであるなど、常識的に見て冷静な意見といえない場合も、名誉毀損になる場合があります。

②人の自尊心やプライドを傷つける【名誉感情の侵害】

「名誉」が周囲からの評価だったのに対し、「名誉感情」は、「自分が自分自身のことを大切に思う気持ち」です。「プライド」・「自尊心」とだいたい同じです。「キモい」「ウザい」「死ね」というような常識的に許されないような言葉で相手の気持ちを踏みにじったときも、相手に慰謝料などを支払わなければならなくなります。

SNS にこんな書き込みをする人は、軽い気持ちでやっていたり、間違った正義感（「悪いヤツだからこらしめよう」など）にもとづいていたりすることも多いです。しかし、その書き込みが相手にとってどんな深刻なダメージを与えることになるか、自分の感じた正義感が正しい情報にもとづいているのか、仮に相手に非があるとしても、誰でも見られるようなかたちで非難することが正しい方法なのか、よく考えてみる必要があります。

もしもSNSでひどい書き込みをされたら？

SNS上で誹謗中傷^{ひぼうちゆうしょう}などの投稿をされてしまった場合には、

- ①サイトの運営者に対して投稿の削除要請をする。
- ②投稿をした人に対する損害賠償請求をする。
- ③投稿をした人の処罰を求める。



…などの対処が考えられます。が、**まずは学校の先生や保護者のかたなど、身近で信頼できる大人に相談しましょう。**そうすれば一緒に解決策を考えていくことができます。また、行政を中心に、以下のような相談窓口がありますので知っておきましょう。

◎悩みや不安を聞いてもらいたいとき◎

- ☆ 厚生労働省『まもろうよ ころ』
(<https://www.mhlw.go.jp/mamorouyokokoro/>)
- ☆ 文部科学省『24時間子供 SOS ダイアル』
【TEL：0120-0-78310】
(<https://www.mext.go.jp/ijime/detail/dial.htm>)



▲『まもろうよころ』



▲『24 時間子供 SOS ダイアル』

◎解決策を考えたいとき◎

- ☆法務省『インターネット人権相談受付窓口』
(<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken113.html>)
- ☆総務省『違法・有害情報相談センター』(<https://ihaho.jp/>)
- ☆(社)セーフインターネット協会「誹謗中傷ホットライン」
(<https://www.saferinternet.or.jp/bullying/>)

など

<法務省民事局『大人への道しるべ』(<https://seinen.go.jp/>) より>

●伝えたいことはたくさんありますが、紙面の都合で今回はここまで。いずれにしても、皆さんを守ってくれる人は必ずいます。そして、まわりに困っている人はいないか、助けを求めている人はいないか、ぜひアンテナを高くして過ごしてください。例年になく長い梅雨期。そして不要不急の外出自粛が求められる日々ですが、SNSとも上手につきあい、心身ともに健康に過ごしたいですね。相談したいことがある人は、遠慮なく声をかけてください。

(*この便りは持ち帰り、保護者のかたと人権について語り合うきっかけにしてください。人権教育推進スタッフ：森脇)